

### 1 自己評価及び第三者評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2875201150		
法人名	有限会社 アクシル		
事業所名	グループホーム「ウッドランド」		
所在地	兵庫県神戸市西区中野1丁目1-1		
自己評価作成日	平成22年5月3日	評価結果市町村受理日	平成22年5月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kai-go-kouhyou-hyogo.jp/kai_gosi/p/informati_onPubl_i.c.do?JCD=2875201150&amp;SCD=320">http://www.kai-go-kouhyou-hyogo.jp/kai_gosi/p/informati_onPubl_i.c.do?JCD=2875201150&amp;SCD=320</a>
----------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ライフ・デザイン研究所
所在地	神戸市長田区菟乃町2丁目2番14-703号
訪問調査日	平成22年5月14日

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームという施設ではありませんが、家庭の延長であり、各居室が利用者様の家であるという理念に基づき日々実践しています。近隣の喫茶店などに出かけたり、買い物・美容にも出かけたりにしています。四季に応じてお菓子を手作りしています。庭の畑でも利用者様と一緒に四季を感じて頂けるような野菜を植え、栽培しています。利用者様と共に収穫して、1年と通して無農薬の野菜や果実などを召し上がっていただいております。天気の良い日は庭でお茶を飲んだり、ボール遊びなどを行っています。職員が弾きピアノに合わせて昔の童謡などを利用者様と一緒に歌っております。地域のボランティアセンターの方に来て頂き、ドッグセラピーを行っております。毎週花を注文しており、その花を利用者様に生けて頂き、玄関に飾っております。衛生面を考慮し、専門薬品にて床や手すりなどを消毒しております。食事は利用者様にも手伝って頂きながら調理しております。

#### 【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

園芸ボランティアの協力を得て、四季折々の(野菜・果実・花等)を育て、利用者に季節の移り変わりや収穫の喜びを感じてもらっている。協働で収穫した野菜等を、近隣の方にもお裾わけをして、地域住民としての双方向のご近所付き合いに繋がっている。また、自治会に加入して積極的に地域の方と交流する機会を大切にしている。自治会長を中心に地域消防団のメンバーへの連絡網も整備されおり、災害時の具体的な救出方法や地域との連携体制が充実している。生活面においては、ホームでの生活そのものが、機能訓練となるように利用者一人ひとりが役割を持ちながら、日常生活動作の中で、できる力を活かした支援をしている。

#### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価および第三者評価結果

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事務所や更衣室に掲示し、入職時には配布して知らせています。理念を念頭に置いて、日々の業務に取り組むように努めています。	今までの誇りを持った暮らしの継続を支援することをケアの根幹に日常生活動作の維持に向けて、日々の暮らしの中でのリハビリと散歩や買い物時の地域の方とのふれあいを大切にしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議を通して、地域の方との繋がりをもち、自治会等の行事にも積極的に参加しています。 散歩や買い物に出掛けた時には挨拶をしたり、天気のことなど立ち話をする時もあります。	悪天候時、通学途中の小学生に避難場所としてホームを活用してもらったことで、小学校との双方向連携体制ができてきた（緊急時に小学校のAEDの使用許可を頂く等）更なる地域貢献を目指して、散歩時を活用してごみ拾いをするなども検討している。	こども110番への参画や小学校との双方向の交流を期待しています。
3		事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通して、地域の方より、相談を受けたりしています。 また、地域の方が直接来られ、相談を受けることもあります。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催し、ホームの近況や行事予定等を報告しています。自治会等の行事に参加、ふれあい町作りとの架け橋となっております。	ふれあいまちづくり協議会の世代間交流や地域行事の情報を教えて頂いたり、災害時の対応について具体的な話し合いを行い、利用者の楽しみごとの支援や安心した暮らしに向けた支援に繋がっている。	今後は、ホームの力を活かした地域貢献について、会議で相談されることを期待します。地域の相談窓口として機能することで、地域連携の輪を広げられることを期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	区役所や市町村の担当者と頻りに連絡を取り、連携を図っています。 入居相談の問い合わせにも対応しています。	玉津グループホーム交流会やケアマネ連絡会で区担当者との交流を持ち、西区グループホーム連絡会であんしんすこやか係の担当職員と情報交換をする等、積極的に協力関係づくりに努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に身体拘束の研修を行い、代表者及び全ての職員が、正しく理解し、身体拘束をしないケアに取り組んでいます。	全面道路は、交通量が多いため玄関は施錠しているが、職員は常に利用者の行動に気を配る意識が浸透している。	利用者一人ひとりの心身状況の把握に努め、拘束に繋がらないケアの実践について、更に質の向上を目指して頂くことに期待をしたい。
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に研修を行い、周知徹底を行っています。 職員同士で注意を払い、虐待が起こらないように意見の交換を行っています。	高齢者虐待を予防するために、不適切な声掛けについて定期的に研修している。	

自己 者 第三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	グループホーム ウッドランド 次のステップに向けて期待したい内容
8	(7) ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	良い資料を見つけたら、回覧を回し、理解を深めるのは個人に任せているのが現状です。 現在入居されている方で後見人制度を利用されている方もおられます。	地域包括支援センターと相談しながら、日常生活自立支援事業の研修を予定している。	権利擁護の制度について、職員がその意義を理解して、必要に応じて利用者家族や地域の方に情報提供できるように定期的に研修の機会を設けることを期待しています。
9	(8) ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	問い合わせや見学の段階から不安や疑問等を傾聴し、十分に説明を行っています。その都度納得して頂けるように支援しています。	契約日に契約書の内容を説明し、納得した上で契約できるように支援している。疑問点については、都度対応している。	
10	(9) ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置し、匿名でも書いて頂ける様にしています。面会時や電話連絡時に意見や要望を気軽に言えるような雰囲気作りを心掛けています。	家族等が意見を気軽に言いやすい雰囲気づくりに努め、家族等からの意見は、代表者や管理者に伝わる仕組みができています。家族からの提案で裏庭に花壇を作り季節の花を育てている。	
11	(10) ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月職員会議の時に意見や提案を聞いています。 その他、個別にいつでも言えるような雰囲気作りを心掛けています。	月1回の職員会議を行い、職員が自由に意見を言える場を設けている。職員の意見により、リネン交換週間予定表や外出支援表を作成している。	
12	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年1回の昇給や年2回の賞与があります。 その他資格手当もあります。		
13	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月社内で職員が交代で講師をし、研修を行っています。 また新入職者に対しては、1対1でのオリエンテーションを行っています。		
14	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	西区グループホーム連絡会やケアマネ連絡会など、地域で行われている交流会に交替で参加しています。		

自己 者 第三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	ループホーム ウッドランド 次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	安心して利用していただけるように自宅へ訪問して、本人の話を傾聴する機会を作っています。 見学時には、他の利用者と会話をしたり、お茶を飲んだりしながらホーム内の雰囲気を感じて頂くようにしています。		
16	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	問い合わせや見学の時に傾聴するように努めています。入居時にご家族様の不安をお伺いし、入居後も離れて暮らすご家族様のどんなことでも気軽に言っていただけるように努めています。		
17	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	最初の相談の段階から、必要な支援は何かを職員で話し合いをし、適切な援助が出来るように努めています。		
18	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ホームのみんなは大きな家族であるとの考えのもと、一緒に外出したり、食事や家事を行い、支えあいながら生活しています。 日々、利用者様から職員への優しい気遣いの言葉にも励まされることも多いです。		
19	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	常に連絡を取り、状態を報告しています。現在の状態の情報を共有することで、共に支えあえるような環境作りをしています。		
20	(11) ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	24時間いつでも訪問していただけることを、ご家族様やご友人にもお伝えしています。お仕事帰りや、お出掛けの帰りなどにお顔を見に寄っていただいています。	馴染みの方が気軽に訪問しやすい雰囲気づくりを心がけている。友人や手芸教室の先生の訪問も多い。仕事帰りに立ち寄ってもらっている家族もある。家族や友人宛てに手紙や年賀状が書けるように支援している。	
21	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションや行事などで、他の方と仲良く触れ合える機会を設けています。		

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	ループホーム ウッドランド 次のステップに向けて期待したい内容
22			○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居されたあとも、代表が連絡を取っており、困った時には手助けできるようにしています。 その他、ご家族様より、近況など連絡を頂いています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	(12)		○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	御希望や御意向を1人ひとりから聞き取るように努力しています。 言われない方は本人本意になるよう話し合いをしています。	本人の思いを把握できるように入浴時等々を利用して、1対1でのコミュニケーションをとる時間を大切に思いの把握に努めている。	今後も1対1での対話を大切にされることを期待します。入浴時以外にも個別にコミュニケーションをとる時間を設けられたらどうでしょうか。
24			○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	自宅で使用されていた家具等を持ってきて頂き、馴染みの物に囲まれて生活して頂いています。 ご本人やご家族様にこれまでの生活を聞き取ったり、サマリー等により把握に努めています。		
25			○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送りをを行い、日々の生活を職員が把握できるようにしています。 また申し送りノートも活用しています。		
26	(13)		○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人やご家族様の話を聞き取り、職員間で話し合いをしています。 介護計画作成後、定期的にモニタリングを行い、計画の見直しも行っています。	担当職員を決めて、日々のかかわりの中で利用者様の様子を記録し、月1回の会議で、ケアプランの変更の必要性について話し合っている。家族の来訪時や電話を利用して意見を聴き、ケアプランに反映させている。	
27			○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケア記録は毎日記入しています。 申し送りノートと併用して情報の共有に努めています。		
28			○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	外出や病院受診など、状況・要望・希望に応じて支援を行っています。 ご家族様と外出される時には、身だしなみ等の支援も行っています。		

自己 者 第三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	ループホーム ウッドランド 次のステップに向けて期待したい内容
29	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自治会主催の行事に参加したり、近くのトナーやサティ、イズミヤなどへ買い物へ行ったりしています。		
30	(14) ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	毎週火曜日に協力病院の往診を受けています。	遠方のかかりつけ医に受診を希望される場合は、家族に協力を頂いている。受診・往診記録を作成し、職員間で情報を共有している。医師への連絡ノートを作成し、本人の状態の変化を報告できるようにしている。	
31	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	往診時に看護師の方も一緒に来て下さっています。その他、協力病院に電話をした時に対応してくださっています。		
32	(15) ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院したとき、その病院のケースワーカーの方と連絡を取り、早期退院に向けてともに働きかけています。退院までの間も、お見舞いに伺い、現状把握に努めています。	入院中の利用者の不安を取り除けるように職員が病院を訪問している。病院のソーシャルワーカーと早期退院に向けて相談している。	
33	(16) ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	食事が摂取できなくなると主治医の指示にて主治医のいる病院に入院して頂いています。重度化しても対応できるように職員の育成にも取り組んでいます。	重度化した場合に必要な介護(食事・移動・移乗。体位変換等)の研修を実施している。重度化した場合のホームの方針は、決めていない。	重度化した場合のホームの方針は、明確にして文書化し、利用者の状態変化の都度、家族等と話し合いをしてほしい。
34	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変等あったときの対応は、全職員に伝えています。またマニュアルも作成し、周知徹底に努めています。		
35	(17) ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に消防訓練を行っています。	年2回の消防訓練を実施している。災害時に備えて地域消防団に建物の内部を見てもらっている。実際の救助活動に必要な、利用者一人ひとりの個人情報に配慮したADL情報をまとめている。	

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	ループホーム ウッドランド 次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
36	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	自尊心を傷つけないよう、尊敬の念を持って接しています。親しみをを持って頂けるよう、可能な限り普段使いの言葉で接するようにしています。	アウトホームな会話を心がけているが、不適切な声掛けについては、管理者が都度注意して、職員の気づきを促している。特に排泄の声掛けやトイレ誘導は、羞恥心に十分に配慮した声掛けをしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	希望・要望を傾聴し、日々の生活の中から、自己決定して頂く機会を設けています。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の生活は基本的に利用者様の今までの暮らしを尊重していますが、集団生活なので、叶えられないこともあります。可能な限りご希望に添えるように努めています。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理・美容は必要に応じて近隣の理・美容店へ行っています。男性の方は髭剃りのお声掛けを行ったり、女性の方はお化粧品をしていただいたりしています。			
40	(19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	全利用者が畑で出来た無農薬の野菜をお食事のときに食べて頂いています。食事中はテレビを消し、他の方との会話を楽しんで頂いています。	利用者のできる力を活かして、買い物・調理の下ごしらえ・配膳・洗い物等を協働している。敷地内の菜園で育てた季節の無農薬野菜の収穫も協働している。行事食やおやつも手作りしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1人1人の状態に合わせて対応しています。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、ご本人で出来ることはして頂き、出来ないところを支援しています。			

自己 者 第三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	ループホーム ウッドランド 次のステップに向けて期待したい内容
43	(20) ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンの把握に努め、トイレ誘導を心がけています。	自立した排泄が継続できるように下肢筋力の低下予防に向けて、ホーム内での階段昇降や散歩を日課にしている。排尿パターンを把握して、さりげないトイレ誘導をしている。	
44	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日常生活を送りながら、出来る限り運動をして頂き、水分もたくさん摂っていただくように支援しています。 便秘時には主治医に連絡をし、支持を仰いでいます。		
45	(21) ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	お風呂は毎日沸かしているので、希望に応じて入って頂いています。また、御希望がなくても、お誘いをして入って頂いています。また、ご自分のペースでゆったりと入浴して頂いています。	入浴時間は、午前中を基本としている。毎日入浴できる体制をとり、利用者一人ひとりの気持ちに沿って入浴できるように支援している。季節湯(ゆず湯・菖蒲湯)や入浴剤を使用して、入浴を楽しんでもらっている。	
46	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	シーツ交換を定期的に行い、天気の良い日には布団を干したりしています。ゆっくりと休んで頂けるように、室温にも気をつけています。		
47	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	居宅療養管理指導を活用し、主治医及び薬剤師の指示のもと、服薬して頂いています。薬剤情報もケア記録にファイルし、副作用等気になることがあればすぐに調べられるようにしています。		
48	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様の出来ること・やりたいことに合わせて役割を持って日々の生活を送って頂けるように支援しています。 ご本人にとっての楽しみを聞き取り、生活の中で支援できるように努めています。		
49	(22) ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や買い物、お庭でのレクリエーションなど、屋外へ出る機会を増やしています。	毎月、季節に応じて花見やカラオケ、外食を楽しんでもらっている。日課として、近隣への散歩やスーパーへの買い物を実施している。庭のウッドデッキで、お茶を楽しむこともある。	



自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	ループホーム ウッドランド 次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望に応じて、買い物へ出て、お金を使えるように支援しています。お金の管理をご本人がされている方もおられます。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご希望があれば、ホームの電話を使用して頂いています。		
52	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	室温等を調整し、居心地良く過ごして頂けるようにしています。手作りのディスプレイや天気の良い日には窓を開けて、季節感を感じていただけるように工夫しています。	玄関・階段ホールにテーブルやイスを設置して好みに過ごしてもらえる空間づくりをしている。日当たりの良いリビングにはソファがあり、テレビを見たり談笑ができる。庭園には、ベンチを設置し、近隣の田植えや稲刈り等の季節の風景を楽しんでもらっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングのソファや踊り場のイスなど、思い思いの場所で過ごして頂いています。		
54	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内には馴染みの物を持ってきて頂き、居心地の良い空間作りに努めています。足りない物は職員と一緒に買い物へ行き、好みの物を購入してもらっています。	馴染みの物や使い慣れた家具、仏壇、家電など自由を持ち込んでもらい、好きな写真や手作りの作品を飾ってもらっている。本人の状態に合った必要なものを家族と相談しながら購入してもらっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご本人の出来ることを、聞き取ったり、職員間で話し合いをし、出来ることを日々の生活でして頂きながら、自立に向けた支援をしています。		